

第4章 未指定文化財

1 未指定文化財の被災の概要

(1) 被災の概要

令和2年7月豪雨では、種別を問わず多くの未指定文化財も被災した。しかしながら、未指定文化財の被害の全容は把握できていない。災害時における未指定文化財の被災状況把握は課題であるが、ここでは文化課及び県立美術館等が実施した文化財レスキュー事業や建築士会九州ブロック会による歴史的建造物被災調査によってある程度被害の状況が明らかとなっている美術工芸品等と建造物についてまとめる。

(2) 美術工芸品等

文化課が実施した文化財レスキュー事業では、実数で17件2,160点を救出した（表2-3）。なお、整理後の救出資料数は、17件2,160点である。救出資料はいずれも水損しており、水濡れによる汚損やカビ類の発生も確認された。

(3) 建造物

建築士会九州ブロック会によって実施された歴史的建造物被災調査によると人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・山江村・球磨村・八代市・水俣市・芦北町・津奈木町に所在する未指定歴史的建造物57件が被災し、そのうちの34件が全壊又は半壊した（表2-5）。

2 復旧状況

(1) 美術工芸品等

文化財レスキュー事業で救出した資料は、救出直後に吸水や乾燥等の応急処置を行い、令和2年（2020年）12月下旬までに全ての応急処置が完了した。救出資料は、令和3年度（2021年度）以降、随時所有者への返却を進めており、令和7年（2025年）3月31日現在で16件1,621点を返却している（表2-4）。

(2) 建造物

被災した未指定歴史的建造物は、公費解体によって失われてしまったものもあるが、令和4年度（2022年度）以降、県が実施する国登録有形文化財化支援事業を活用し6件の建造物が復旧を進めている。

今後も、文化課では所有者の意向を踏まえ未指定建造物の復旧を進めていく。

【復旧事例】

おおがきびしゃもんどう もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう 大柿毘沙門堂・木造毘沙門天立像

1 基本情報

(1) 種別

大柿毘沙門堂：未指定（建造物）

木造毘沙門天立像：未指定（彫刻）

(2) 所在地

人吉市

(3) 所有者

大柿地区



図 3-8 大柿毘沙門堂及び木造毘沙門天立像位置図

(4) 文化財概要

大柿毘沙門堂は、大柿地区の北東部に位置する。木造瓦葺、桁行3間×梁間2間の建物である。堂宇に残る板書には、文政6年（1823年）に堂宇が焼失したため、堂宇と仏像を再興したと記される。堂宇裏には多数の五輪塔が建立されている。

堂宇には、本尊である木造毘沙門天立像が脇侍童子像（善膩師童子カ）1躯と共に安置されている。毘沙門天立像は総高約161.0cmの寄木造で、背面の墨書銘から文政7年（1824年）に制作されたことが分かる。台座に書かれた記録によると本尊は、明治23年（1890年）に八代の仏師により塗り直しが行われている。また、堂宇内には旧本尊と思われる焼損仏も安置されている。

2 浸水状況

大柿毘沙門堂は、球磨川左岸、河川中央付近から直線距離で130m程度西側に位置する。

令和2年7月豪雨では堂宇が所在する大柿地区全体が甚大な被害を受けており、地区の西側では5.0m以上の深さまで浸水したと推定されている。地区の東端に位置する大柿毘沙門堂でも発災当時は現路面から3.0m程度の深さまで浸水したと考えられる⁴⁴。

なお、豪雨前の大柿毘沙門堂周辺の洪水浸水想定区域（最大規模）は1.0m未満～1.0mの区域であったが、豪雨後に改定された人吉市総合防災マップでは5.0m～10.0m未満の区域となっている。

⁴⁴ 国土交通省国土地理院 HP (https://www.gsi.go.jp/BOUSAI/R2_kyusyu_heavyrain_jul.html#9) より推定。
地理院ホーム＞防災・災害対応＞令和2年7月豪雨に関する情報（提供情報一覧 2. 浸水推定図）

3 被害概要

大柿毘沙門堂は、建物上部まで浸水し、堂宇全体が傾き全壊した。また、堂宇裏の五輪塔群も倒壊した。

木造毘沙門天立像は、増水した球磨川の濁流によって堂宇の裏から外に押し出され、兜及び光背の一部が亡失した。また、脇侍童子像は流出し、現在も所在不明である。その他、存在が知られていなかった旧本尊と考えられる焼損仏も堂宇外に投げ出された状態で発見された。

4 被害確認後から復旧開始までにとられた措置

堂宇は倒壊防止のため、支柱による支えが行われた。その他、堂宇周辺に堆積した泥の撤去や倒壊した五輪塔の積み直しが地元郷土史家の声掛けによって実施された。

木造毘沙門天立像は、盗難の可能性が危惧されたことから、被害確認後ただちに有志により救出され人吉城歴史館に搬入された。その後、人吉市からの要請を受け令和2年（2020年）8月に文化課が文化財レスキュー事業の一環で木造毘沙門天立像及び焼損仏を山江村歴史民俗資料館へ移送し、堂宇が復旧するまで同館で保管された。

5 復旧事業

（1）事業期間

令和4年度（2022年度）

（2）事業主体

大柿地区

（3）復旧の概要

大柿毘沙門堂は、現地で解体復旧が行われた。

木造毘沙門天立像は、救出後清掃等の応急処置を行ったが亡失した兜及び光背の一部の修復は行っていない。本像は毘沙門堂復旧後に焼損仏と共に堂宇内に再び安置された。

（4）活用した補助事業等

国庫補助	県費補助	市町村費補助	民間助成	その他
	○			○

【県費補助事業】

- 令和2年7月豪雨被災者等支援交付金（市町村事業）／地域コミュニティ施設等再建支援事業⁴⁵／補助率 所有者等負担額の1/2以内

【その他】

- クラウドファンディング

⁴⁵ 事業者は「地域コミュニティ施設等再建支援事業」として実施し、人吉市から補助金の交付を受けている。

6 その他

大柿毘沙門堂と同じ地区に所在し令和2年7月豪雨で被害を受けた大柿観音堂では、被災後、地域住民が本尊である木造聖観音菩薩立像を水洗いし堂宇内で陰干しを行っていたところ盗難被害を受け、同像は現在も所在不明となっている。

このような災害に乗じた仏像の盗難被害は他県でも事例が報告されている。文化課では災害時に未指定文化財を守るため文化財廃棄防止の呼びかけを行っているが、同時に文化財の盗難に対する注意喚起も行っていく必要がある。



(令和2年7月22日・文化課)
被災状況



(令和7年3月30日・文化課)
復旧状況

写真 3-10 大柿毘沙門堂（東から）



(令和2年7月22日・文化課)
被災状況



(令和7年3月30日・文化課)
復旧状況

写真 3-11 木造毘沙門天立像